評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143-27		
電話番号	0820-74-1124	事業所番号	3597100035
法人名	有限会社 ひまわり		

訪問調査日	平成 21 年 10 月 16 日	評価確定日	平成 22 年 2 月 5 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人 非常勤 2 人 (常勤換算 7.6 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 33,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	12,000 円		
	内訳	光熱水費		

(4) 利用者の概要 (10月16日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	5	要介護 4
	要介護 2	1	要介護 5
	要介護 3	3	要支援 2
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 増本クリニック 野村医院 柳井病院 光輝病院 歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

法人施設内での職員の異動はありますが、離職はほとんどなく、利用者と職員の信頼関係が築かれ、家族の安心にもつなげておられます。利用者のさりげなくしている行動にも気持ち察知してやさしく声をかけ、思いを聞き、寄り添い、利用者の心理状態に気づいてこまやかに配慮するケアをされています。夜間の緊急時には代表者又は施設長が対応し、他の職員に負担がかからないようにすることで、職員が利用者一人ひとりに密にかかわり、利用者の満足に繋がるように取り組まれています。

(特徴的な取組等)

介護健康記録に利用者全体の状態が時間を追って記録されており、職員全員の共通理解とされています。それをまとめて一人ひとりの生活記録に記入し、介護計画に反映されています。家族連絡ノートに日付、連絡先、相手氏名、連絡者名、連絡内容等を記録され、連絡したことが職員間で共有され、家族との信頼関係につなげておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

玄関先のベンチで皆でくつろぎ玄関を自由に出入りする時を設けたりして、玄関の施錠に対する工夫をされています。

(今回の自己評価の取組状況)

項目ごとに分けて職員に記入してもらい、管理者がまとめて作成し、出来たものを皆で検討されています。ケアのあり方について見つめ直す機会とされています。

(運営推進会議の取組状況)

家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、施設職員のメンバーで2ヶ月に1回開催されています。生活状況報告、評価の取り組み、地域向け通信についての話し合い、家族の意見等活発に話し合いが行っておられます。

(家族との連携状況)

2ヶ月に1回ホーム便りを送付されています。家族の来訪時や電話で暮らしぶりや健康状態を伝えておられます。運営推進会議への参加を全家族へ呼びかけておられます。敬老会には例年、家族、職員、利用者で親睦会が行われていますが、今年は新型インフルエンザ感染予防で職員、利用者で行われています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、草刈りや自治会の集いに運営者が参加されています。地域向けホーム便りを半年に1回作成し、近所の薬局の看板に掲示したり、自治会で3地区に回覧されています。今年は新型インフルエンザ感染を考慮して地域活動交流を控えておられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスの理念として「笑顔から生まれる信頼の輪」〔私たちは地域に愛される施設を目指しています。地域の方々に笑顔で挨拶することを心がけています。〕という事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々のミーティングで笑顔で接し信頼される関係づくりについて話し合いを行っている。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入している。地域向けホーム便りを半年に1回作成し近所の薬局の看板に掲示したり、自治会で3地区に回覧している。今年は新型インフルエンザ感染を考慮して地域活動交流を控えている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	項目ごとに分けて職員に記入してもらい、管理者がまとめて作成している。できたものを職員と一緒に確認している。自己評価、外部評価に取り組むことでケアのあり方について見つめ直す機会となっている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	家族、自治会長、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター、社会福祉協議会、施設職員のメンバーで2ヶ月に1回開催し、生活状況報告、評価の取り組み報告、地域向け通信についての話し合い、家族の意見等活発に話し合いが行われている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設長が疑問点や分からないことなど電話で聞いたりして、連絡を密にとり、サービスの質の向上に努めている。相談して栄養士を紹介してもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回ホーム便りを送付している。来訪時に暮らしぶりや健康状態を伝えたり、電話で様子を話したりしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議で家族の意見を聞いたり、電話や面会時に家族の意見等を聞き、対応している。苦情処理の窓口及び手続きを定めているが、第三者委員の選任はしていない。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤2名を確保し、柔軟な対応ができるようにしている。職員の急な休みにも非常勤で勤務の調整をしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限にしており、離職希望の職員を管理者が説得し、離職にはならず、利用者は馴染みの職員で安心して暮らしている。新しい職員は認知症高齢者のケアに適した人を採用し、半月くらい重複勤務を行い、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として研修の機会を提供している。研修後はレポートを提出し、それを他の職員が閲覧できるようにしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホームの運営推進会議に参加し、交流を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人、家族が住んでいる所へ行き、困っていることや不安などを聞いたり、グループホームを見学してもらい、職員や入居している利用者と話す機会を設けたりして、雰囲気を感じてもらおうなど、本人が馴染めるように工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一緒に調理や家事をしながら、利用者の得意な分野でもてる力を発揮できるように支援したり、頂いた野菜の調理方を習ったり、ことわざを教えるなど、支えあう関係を築いている。利用者の中には気の合う職員と夜じっくり話をして過ごす場合もある。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>何気なくされているように見える行動に本人の気持ちを感じ取り、本人に話しかけて気持ちにより添うようにしている。利用者の薬と一緒にとりにいくついでにドライブし、お茶を飲み気持ちを聞いたりしている。介護健康記録に気持ちの表れたことばなどを記録し、意向の把握に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の日常の生活の中で聞いた希望や願いや家族の希望を反映した介護計画を全員で話し合い、作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月ごとにモニタリングし、介護計画の見直しを行っている。状況の変化に応じて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を取り、受診の送迎、付き添い支援を行っている。利用者の懐かしい場所へドライブに行ったり、理美容院への送迎、買物支援等を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホームの協力医をかかりつけ医とすることを本人、家族に了解してもらい、受診や往診の支援をしている。認知症専門医の受診支援も行っており、定期的に内科医と専門医の往診がある。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化対応の指針を作成しており、入居契約時に説明し、同意書に署名を得ている。入院等重度化した場合、本人、家族、かかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はなく、個人情報の扱いには気を付けている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の体調やその日の状態を把握し、無理なく過ごせるように支援している。利用者の気持ちを受け止めドライブに誘ったり、話を聞いたりしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養士が利用者の要望を聞き、楽しみなものを取り入れて献立を立てている。三食ともホームで調理し、利用者と職員と一緒に準備、片付けをしている。職員は同じものを一緒に食べている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午前から夕方までに毎日入浴ができるようになっている。毎日入浴を希望する人へは希望に添うようし、体調を考慮し、無理のないように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理、配膳、片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみなど一人ひとりが出来る場面づくりをして、活躍できる支援をしている。カラオケで歌を歌ったり、体操、ぬり絵、折り紙、はり絵、、ゲーム、ドライブ等楽しく過ごせる支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	玄関先のベンチでみんなでくつろいだりしている。個別にドライブでお茶を楽しんだり、みんなで季節の花見に出かけたりしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束について理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関に鍵をかけているが、玄関先のベンチで皆でくつろぎ自由に出入りするときを設けたり、外へ出かけた人へは付き添って出かけるなど気持ちに添う支援をしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎日午前、午後に歩行、ストレッチを行い転倒防止に取り組んでいる。一人ひとりの状態に応じた対策をミーティングで話し合っている。事故・ヒヤリはと報告書に記録し職員間で検討を行っている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	施設の隣に消防士が住んでおり、運営推進会議のメンバーであり、毎年、救急隊員による救急方法の指導を受けている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、避難訓練を行っている。今までに一度近所に協力をお願いして訓練に参加してもらったことがある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の薬の表を作成し、職員は薬の目的、副作用、用法、用量について理解している。手渡しで服薬を支援している。症状に変化があれば医師に連絡し、指示を仰いでいる。必要な情報はフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	食後、緑茶によるうがいを支援している。就寝前に歯磨き、義歯の洗浄等の口腔ケアを行っている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による栄養バランスを考慮した献立で、一人ひとりの状態に応じた量やおかずの形状に工夫し、食べやすいようにしている。食事量を記録し、水分量は配慮がある人の記録をとっている。部屋にお茶を持っていく人もいる。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルで予防や対応の取り決めがあり実行している。玄関に消毒液、マスクを設置し、リビングにある洗面台で手洗い、うがいがすぐできるようにしている。新型インフルエンザ対策を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングの窓から山や畑、草地が見え、玄関、ホールには花を飾り、季節感を感じることが出来る。不快な音や光はなく利用者は落ち着いて過ごすことができる。対面式の台所で三度の食事が作られ、ご飯の炊ける匂いや一緒に準備をするなど生活感がある。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはタンスや机、椅子、テレビ、人形など持ち込まれ、棚には昔の写真や家族の写真、自分で作った作品が飾られてあり、居心地よく過ごせるように工夫されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム こすもす
所在地	山口県大島郡周防大島町大字小松開作字上浜143-27
電話番号	0820-74-1124
開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日

【サービスの特徴】

地域の方々に笑顔で挨拶するという基本的なことから地域に浸透していき、地域に愛される施設を目指している。また入居者はもとより、御家族、職員間の信頼関係を築き、入居者の方々には、持てる能力、個性を生かし、安心して生き生きと生活していけるように取り組んでいます。

【実施ユニットの概要】 (9月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム こすもす			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	5	要介護4	0
	要介護2	1	要介護5	0
	要介護3	3	要支援2	0
年齢構成	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 97 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員で分担し、管理者が皆の意見をまとめ記入した。
評価確定日	平成 21 年 9 月 24 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価により自分たちの取り組みを見つめ直す機会になり、外部評価により、これからの仕事の励みになり、改善する機会になる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では日頃の生活状況を報告したり、地域向け通信へのアドバイスや外部評価概要や家族の意見を頂き、サービスに活かしている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加され気軽にアドバイスを頂いているがそれ以外は行き来する機会が無いので良い機会が欲しいと思う。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今までの入居者にこの制度を利用される方がいなかったが、今後の為にも学ぶ機会を持ちたいと思う。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員は虐待は断じて行ってはいけない事だと認識しており、今までしたことは無い。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前、退居時には、利用者、家族と十分に話しをし、理解納得の上おこなわれる。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームは家庭的な雰囲気、入居者とは普段から世間話や意見を聞き易く受け入れ可能な事には、応じている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	運営推進会議やこすもすだよりで定期的に報告している。また、来訪時に暮らしぶりを説明したり、健康状態に変化のある時はその都度連絡し、結果を報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	御家族の来訪時にはケアプランなどを見ていただき情報開示している。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談、苦情の受付窓口担当は玄関内に明示し、重要事項説明書にも記載されている。又運営推進会議に御家族にも参加いただき、相談や苦情を伝える機会を設けている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月全職員参加のミーティングがあり、日頃の職員の意見を聞く機会があり、運営者にはいつでも伝えることが出来、意見は反映させている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に応じた適切な職員配置をとっている。急な通院や職員の休みにも勤務の調整をおこない、代替職員はパート職員で確保できている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は最小限になっており、新しい職員は認知高齢者のケアに適した職員を採用し、利用者へのダメージを抑えている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	できるだけ研修の機会を提供している。研修後にはレポートを提出してそれを他の職員が閲覧できるようにしており共通理解と介護技術向上に努めている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の年齢、性格、経験も幅広く多様な資質を持った職員を配置している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	お互いの運営推進会議には参加し、交流を深めている。他の同業者と交流する事が無いので相互訪問等を実現したい。		郡内の同業者と交流できる機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		入居前の情報と併せて日々新しい発見もあり、職員間で共有し適切な支援を心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意見、要望を出来るだけ取り入れ本人が安心して暮らせる介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ミーティングを行い必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月のミーティングでは入居者全員の様子について全職員で意見交換を行い毎日の申し送りでも情報の共有をしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院、地域の美容院の利用等、要望に応じ柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	社協の紹介でボランティアの訪問が来られる時があり、音楽、ダンスを楽しむことが出来、避難訓練は消防署の協力で行っている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	利用者に影響の無い程度の見学を受け入れている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の美容院、時計店、クリーニングを利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者の人権を尊重し、プライバシーは十分に配慮している。個人情報の保護については周知している。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員とのコミュニケーションにより日頃の思いや性格を察し、各個人に合った支援をしている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者がもっている能力にあった家事をしてもらい精神的な負担にならないように支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の体調やその日の状態を見極め、レクリエーションや催し物に誘い本人のペースに合わせる。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に地域のボランティアの美容師の来訪があり、また馴染みの美容院に行くこともある。各人で化粧品等は用意されている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎日、配膳片付けは利用者で行い、調理の下ごしらえを一緒にすることもある。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>お酒タバコは今まで希望されていない。タバコはホームでは禁煙になっている。飲酒の要望があった場合は職員、で協議検討し、その人の嗜好を尊重した対応を考えたい。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>1人ひとりの状態に合わせて排泄の習慣を生かし支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		避難訓練の時には参加、協力をお願いする。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		職員は日頃の利用者の様子観察により変化や異変があれば、職員間の連携により、速やかに医師との連絡、通院等の対応に結び付けている。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		利用者の薬の表を作っており、職員はその目的を把握し症状の変化があれば医師に連絡し、指示を仰ぐ。その情報を職員は共有している。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		服薬による便秘解消は必要最低限にし、水分補給や散歩、による排便を促している。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		食後は緑茶によるうがいや就寝前の歯磨き、義歯の洗浄等の口腔ケアは日常的にしている。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		一人ひとりの状態に応じた量やおかずの形状に工夫し、食べ易く、またゆっくり食事ができるように支援している。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染症マニュアルによって対応できるようにしている。また看護師の指導もうけている。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		毎食の食器、調理器具、の消毒を行い食材も生ものは早く使う事にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にはこすもすの名前に合わせてコスモス絵入りのトールペイントの表札又建物周囲には花壇の花、緑豊かな小樹木等、季節に合わせて親しみ易く保養できるよう工夫している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって手すりがあることで目的地までゆっくり歩ける事を呼びかけるとともに安心感を伝える。又ホールなどには季節の生花を飾ったり食事に季節感のある食材、果物を使い話題づくりにもなっている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	レクリエーションを行っているが強要するものではなく、参加する者もいればホールのソファで座りTVを見たり、又お互いの居室やホールの畳で気の合った利用者同士で自由に話している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には使い慣れたタンスや小物を自由に持ち込むことをお知らせしている。又入居後にも行事に合わせての自分の作品等を各人、部屋に飾り、家族もお互い励みになれるようにしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホールには温度計、湿度計を設置し、又利用者の体調を考慮し、換気や温度調整をしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	ホール内、廊下に手すりがあり、又居室によっては室内に手すりがあり、安全に歩行できるように工夫されている。ベッドは電動で上部をを起こすことが出来、ベッドの手すりにより自分で起き上がりし易くなっている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各利用者のわかる力を職員は見定め、さりげなく支援し、自立して生活出来るように工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	季節に合わせて夏季は涼しい時間帯、冬季は暖かくなってベンチに腰掛皆でくつろいでいる。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	☐ ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	☐ 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	☐ 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	☐ ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	☐ 数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	☐ 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	☐ 職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	☐ 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐ ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない